



玉名教育拠点

1. 活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、今年度、教員3名、後期研修の専攻医4名に加え、さらに次年度に向けて教員スタッフの増員も予定されており、病院の診療支援および実践的な教育の提供という目標達成のための体制に徐々に整備されつつあります。

平成30年度も初期研修医プログラムの「総合診療」の選択研修の他院からの受け入れも増え、特別臨場実習（クリニカル・クラークシップ）の総合診療実習も受け入れています。さらには、今年度はタイ国のメーファールアン大学医学部からの地域医療研修も受け入れ、正式に教育協力協定を締結する運びとなりました。

地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

今後、地域医療に貢献するため、地域での総合診療科の認知度、研修の場としての教育拠点の認知度をさらに上げ、地域での卒前、卒後の医学教育を継続し、充実させていかねばならないと考えています。

特に地域医療職の皆さんに限らず、地域住民の皆様との交流を通じた研修の機会も、専攻医研修の一環としてさらに増やしていきます。

初期研修・専攻医の活動は医療のネットワークと地域住民のネットワークをつなぐ役割を果たしつつあり、今後、地域づくり、地域医療研修に新しい方策をもたらすことが期待されます。

2. 年間活動実績

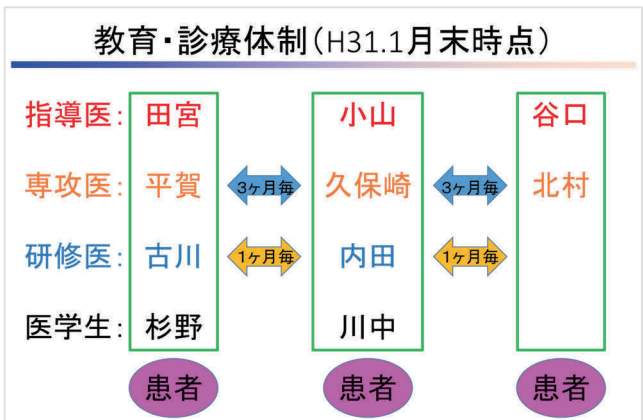
月	日	行事
4	9-20	タイ国 メーファールアン大学医学部学生 「地域医療」実習 3名受け入れ
	21	第8回 九州地域医療教育研究会
	23	第84回玉名救急医療研究会
	26	玉名 クリクラ発表会
5	16	玉名教育拠点セミナー
	19	第321回内科学会地方会「奨励賞」受賞
	24	玉名 クリクラ発表会
6	14	玉名 クリクラ発表会
	16-17	第9回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
	24	第五回 九山セミナー
7	2	第85回玉名救急医療研究会
	5	玉名 クリクラ発表会
	6	玉名教育拠点セミナー
	19	オール玉名緩和ミーティング（レスモアカンファ）
8	19	初期臨床研修医マッチング試験
	31	玉名教育拠点セミナー
9	29	有明地区研修医合同カンファ
10	1	第86回玉名救急医療研究会
	3	玉名中央病院CPC
11	12	寄付講座TVセミナー（玉名会場）
	8・29	玉名 クリクラ発表会
12	22	玉名教育拠点セミナー
1	7	第87回玉名救急医療研究会
	28	オール玉名緩和ミーティング（レスモアカンファ）
3	21	タイ国 メーファールアン大学 医学部 教育協力協定締結 調印式
2018/6～2019/2		玉東町住民講座（計25回） 参画

3. 活動報告

I 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1月～9月までに1ターム3週間の特別臨床実習（地域医療クリニカル・クラークシップ）を合計7ターム実施しています。今年度から本実習は必修化され、当拠点では、昨年までの、選択実習を引き継ぐべく1タームを3名の定員で総合診療選択実習として教育を実施しました。これまでも好評であった、各学生に入院患者の担当を割り当て、図の様に屋根瓦形式の診療・教育体制で日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加させました。診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践してもらいました。



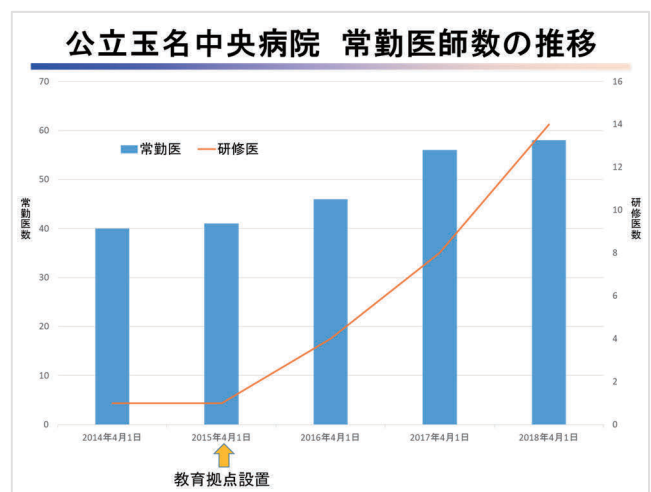
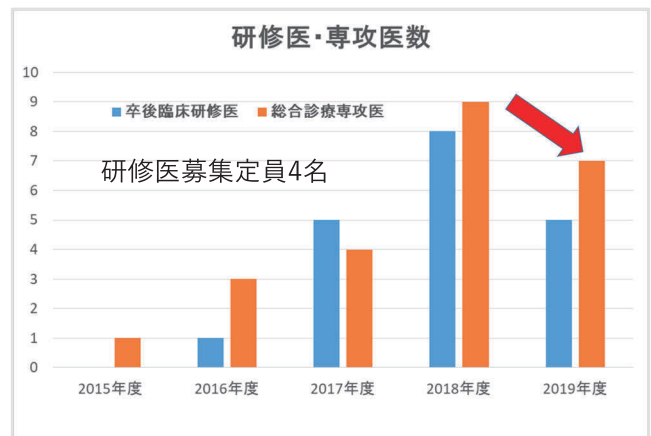
◆ 初期臨床研修（総合診療科研修）

2015年4月に基幹型研修病院としての独自のプログラムに、僅か1名の初期臨床研修医(研修医)でスタートした公立玉名中央病院は、平成29年度、4名の定員のフルマッチを達成しました。熊本大学医学部附属病院や熊本医療センターのプログラムの協力医療施設としてそれぞれ数名の研修医が着任しました。当拠点は、この中でも、総合診療科及び救急研修を担当し、指導を行いました。

昨年度の課題から、各研修医の研修開始前に、診療科間の引継ぎカンファレンスを開催し、予め研修医と指導医の意思確認を行うようにしました。その結果、各研修医の志向に合わせた研修内容の調整が可能となり、研修内容への満足度は向上しています。今後の課題としては、診療科毎の指導方略・方針の違いから、指導体制の標準化への必要性が浮き彫りとなりました。

この事を契機に、院内の研修指導体制についてのFaculty Development講習会開催の必要性が高まり、開催に向けての調整を開始しました。

僅か数年での研修病院としての急成長と共に、院内教育指導体制への課題が浮き彫りになり、その都度研修内容の見直しが必要になっています。すなわち、研修病院として、常に多方面からのフィードバックを基に、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回し続けることが、常に成長し続ける為の鍵になるでしょう。



研修の改善が絶えず行われるように研修医が研修診療科を移動する際、当該研修医、各担当診療科指導医および研修管理責任者で「引き継ぎ会」を開催し、情報交換、問題点の抽出、解決を行なっています。

◆ モーニングレクチャー

当拠点では、新たな教育面の取り組みとして、毎週火曜日の午前8時から30分間のショートレクチャーを学生から専攻医に対して行いました。講師は、指導医のみならず、検査技師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士まで、幅広い職種の職員に及びました。研修医として、将来の医師としての職務に直結する有用な知識・技術を効率よく習得する機会になったとの評価を得ることができました。

日にち	テーマ
4/3	一般診療について
4/10	肺炎について
4/17	グラム染色のコツと解釈法 1
4/24	グラム染色のコツと解釈法 2
5/1	院内暴力の対処法・クレーム対応
5/8	感染管理
5/15	肺がんの疫学
5/22	聴診
5/29	リスクマネジメントについて
6/5	保健指導について
6/12	当院の緩和ケアの実状
6/19	当院の化学療法について
6/26	心不全 1
7/4	心不全 2
7/10	糖尿病の治療
7/17	代謝内分泌の救急疾患
7/24	当院における糖尿病認定看護師の役割について
7/26	血ガス、電解質異常
7/31	リハビリテーションと理学・作業療法
8/2	輸液について
8/7	言語聴覚士の仕事について
8/9	(急性) 腎不全・腎障害
8/14	摂食・嚥下障害看護
8/22	腹部エコー・肝障害の鑑別・慢性肝炎について
8/29	内視鏡について
9/4	救急
9/12	Suture 縫合糸の定義
9/19	急性腹症
9/25	熱傷
10/2	中毒疹
10/9	当院における褥瘡管理の流れ
10/16	脳梗塞
10/23	パーキンソン病
10/30	導尿とカテーテル留置について
11/6	導尿とカテーテル留置について (実技)
11/13	君にも出来る(かも)小児CPAの対応
11/20	小児熱性痙攣・アナフィラキシーショックの対応
11/27	骨折一般
12/4	【実演】ギプスシーネ固定
12/25	救急医療の画像診断

日にち	テーマ
1/8	Ai(オートプシーイメージング)
1/15	悪性形質獲得のメカニズム
1/22	総肺静脈還流異常からの肺静脈狭窄症
1/29	医療費について
2/5	当院からの転院先について
2/12	薬剤師がどんなことをしているか
2/16	PIPC玉東、腹部エコー実習
2/26	化学療法薬剤師の目線



◆ 総合診療専門医（専攻医）研修

専攻医研修プログラムで、当拠点は「総合診療Ⅱ」を実施しており、平成29年度は1名の専攻医が研修しました。彼は総合診療科研修のみならず、救急研修も並行して行っており、週に1日は訪問診療も実践しています。この為、季節に関わらず担当する患者数は常に10名を超えており、日常業務の負担はかなりのものであったと考えられます。また昨年度から、これまでの完全主治医制から診療科主治医制に変更し、土日祝祭日のオンコール体制をシステム化しましたが、当時の2名の専攻医から1名に減ったの体制維持の為に、指導医のマンパワー投入が不可欠となり、専攻医の負担はそのままに、指導医の負担を増やす結果となりました。

やはり現在は専攻医のマンパワーに依存的なシステムであるは否めず、課題は昨年度同様、専攻医が何名になろうと、システムの調整を必要としない、「指導医層の充実化」と言えます。

II 診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行いました。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する指導教員2名の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員・医員も外来診療に携わりました。

◆ 公立玉名中央病院 総合診療科

➤ 平成30年4月1日～平成30年6月30日

月	火	水	木	金
小山	田宮	田宮	田宮	小山
中村	小山	前田	前田	中村

➤ 平成30年7月1日～平成30年9月30日

月	火	水	木	金
小山	田宮	田宮	田宮	小山
	小山	前田	前田	

➤ 平成30年10月1日～平成30年12月31日

月	火	水	木	金
小山	田宮	田宮	田宮	小山
	小山	佐土原	前田	佐土原

➤ 平成31年1月1日～平成31年3月31日

月	火	水	木	金
小山	田宮	田宮	田宮	小山
	小山	(谷口)	松井	(谷口)

* 指導医は週に1度、熊本大学医学部附属病院で診療や公立玉名中央病院での症例についてのカンファレンスを行っています。

年間診療報告

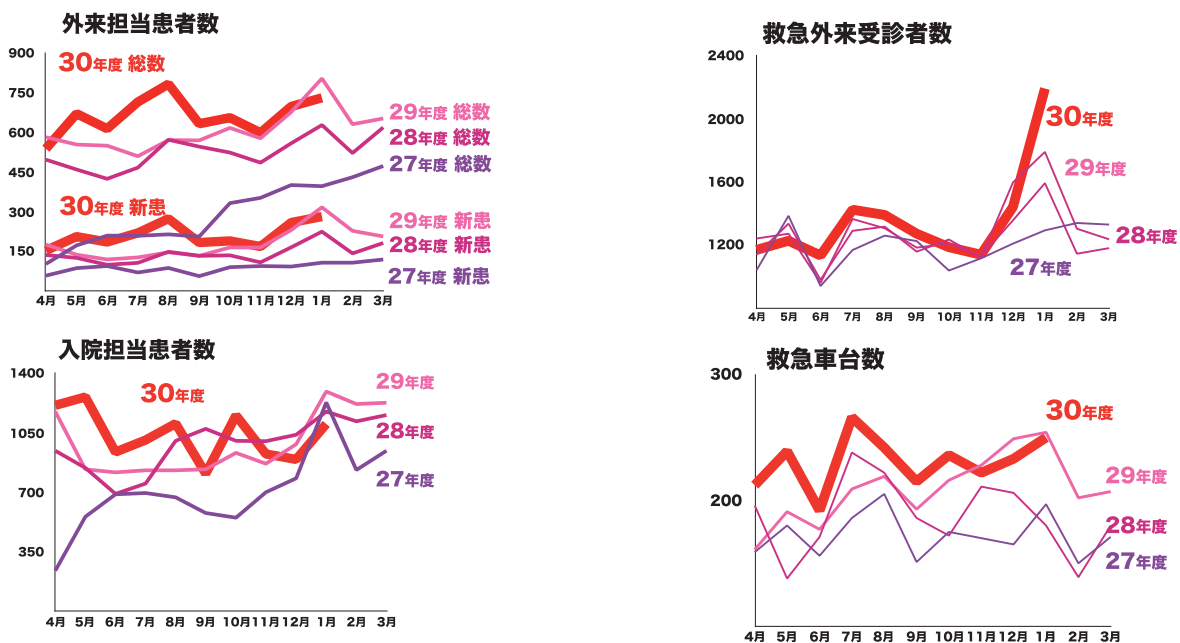
玉名教育拠点開設から4年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、2017年度から水曜日を除き、連日、日勤帯の救急外来も担っています。

右の図が示すごとく、外来での担当患者総数、新患者数共に順調に増加し、本年度も昨年度と同じレベルで推移しています。地域への総合診療科の周知が進んだ結果と思われます。

入院患者数は新たに加わった専攻医を中心に各臓器別診療科と協力し、研修医の教育を行いつつ、昨年度のレベルを維持しています。

本年度も救急外来での受診者数の増加および受け入れ救急車台数の増加が見られ、図には示しません但不応率の低下も認めています。救急医療の充実は地域に信頼される医療機関になるためには必須です。総合診療科が公立玉名中央病院の救急体制を支えることで、病院全体「断らない医療」の意識付けが浸透しつつあるようです。

このように玉名中央病院での診療において総合診療による医療現場での教育、診療支援は病院の診療全体に良い影響を与えていると考えます。



玉名教育拠点セミナー

◆ 玉名教育拠点セミナー「Use of Antibiotics」

2018年5月16日水曜 16:00~17:00

Professor of Medicine, University of North Dakota, Fargo, ND, USA Tze Shien Lo 先生

このセミナーは玉名教育拠点で開催されました。

研修医による症例提示とディスカッション・回診の後、Tze Shien Lo先生による症例に基づいたレクチャーが行われました。

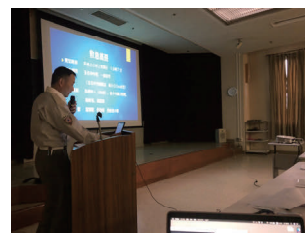
◆ 玉名教育拠点セミナー「どのように救急へシフトするか?」「Walk-in 帰宅可?」

2018年7月6日金曜 15:00~19:00

宮崎県立宮崎病院 救命救急科部長兼医長 雨田 立憲 先生

このセミナーは玉名教育拠点で開催され、またテレビ会議システムで関係医療機関に中継されました。

平成32年度に公立玉名中央病院が新設移転するに際し、救急科新設について、病院関係者に対して「どのように救急へシフトするか?」と題し、また、研修医や専攻医を対象に、「Walk-in 帰宅可? 帰宅可の前に何故?を考えよう!」と題し2部構成での講演を雨田立憲先生ご講演いただきました。



◆ 玉名教育拠点セミナー「集中治療研修会 (Approach to acid base disorder)」

2018年8月31日金曜 16:00~19:00

M.B.B.S., M.D. Pulmonary and Critical Care Medicine, Mayo Clinic Kannan Ramar 先生

このセミナーは玉名教育拠点で開催されました。

Kannan Ramar先生による集中治療についてのレクチャーが行われました。

◆ 玉名教育拠点セミナー「専攻医・研修医のための臨床教育「Kohyama's tenderness」」

2018年12月21日金曜 16:00~17:30

飯塚病院 総合診療科 診療部長 清田 雅智 先生

このセミナーは玉名教育拠点で開催されました。

総合診療科での診療を通じた研修医・専攻医育成において、医師の臨床教育の一環として、飯塚病院から清田雅智先生をお招きし、患者を通じたカンファレンス及び教育回診を実施し、また、講演をしていただき、実践的な臨床を学ぶ機会としました。

